

## 安全データシート

## p-アニシジン

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名	: p-アニシジン
CB番号	: CB6852649
CAS	: 104-94-9
同義語	: 4-メトキシアニリン, p-アニシジン

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 染料中間体
推奨されない用途	: なし

## 会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日(物化危険性及び健康有害性)

H31.3.15、政府向けGHS分類ガイダンス (H25年度改訂版 (ver1.1):JIS Z7252:2014準拠) を使用

GHS改訂4版を使用

## 物理化学的危険性

-

## 健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分4

急性毒性(経皮) 区分5

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(血液)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(血液)

## 分類実施日(環境有害性)

環境に対する有害性はH18年度、GHS分類マニュアル(H18.2.10版)を使用

## 環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 区分1

水生環境有害性(長期間) 区分3

## ラベル要素

## 絵表示又はシンボル

GHS06	GHS08	GHS09

### 注意喚起語

危険

### 危険有害性情報

飲み込んだり皮膚に接触したり吸入すると有毒

皮膚刺激

強い眼刺激

臓器の障害： 血液

長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害： 血

液

長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそ

れ： 全身毒性

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響により水生生物に有害

### 注意書き

#### [安全対策]

粉じん、煙、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

環境への放出を避けること。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

取扱い後は手や顔をよく洗うこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡を着用すること。

#### [応急措置]

飲み込んだ場合： 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

皮膚に付着した場合： 多量の水と石鹼で洗うこと。気分が悪い時は、医師に連

絡すること。汚染された衣類を直ちにすべて脱ぎ、再使用する場合には洗濯を

すること。

吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させるこ

と。医師に連絡すること。

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用して

いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続

く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

暴露または暴露の懸念がある場合： 医師に連絡すること。

漏出物を回収すること。

#### [保管]

容器を密閉して換気の良いところで保管すること。

施錠して保管すること。

#### [廃棄]

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託す

ること。

---

### 3. 組成及び成分情報

化学物質 / 混合物の区別:	: 化学物質
化学名又は一般名:	: p-アニシジン
濃度又は濃度範囲:	: >98.0%(GC)(T)
CAS RN:	: 104-94-9
別名	: 4-Methoxyaniline
化学式:	: C <sub>7</sub> H <sub>9</sub> NO
官報公示整理番号 化審法:	: (3)-682
官報公示整理番号 安衛法:	: 公表化学物質

---

### 4. 応急措置

#### 吸入した場合:

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。

#### 皮膚に付着した場合:

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。多量の水と石鹸で洗うこと。医師に連絡すること。

#### 目に入った場合:

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易にはずせる場合は外して洗うこと。医師に連絡すること。

#### 飲み込んだ場合:

直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

#### 応急措置をする者の保護:

救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

---

### 5. 火災時の措置

#### 適切な消火剤:

粉末, 泡, 水噴霧, 二酸化炭素

#### 火災時の特定危険有害性:

燃焼や高温により分解し、有毒なヒュームを発生する恐れがあるので注意する。

#### 特有の消火方法:

消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。関係者以外は安全な場所に退去させる。周辺火災時、移動可能な

容器は、速やかに安全な場所に移す。

#### 消火を行う者の保護:

消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

個人用保護具を着用する。

漏出場所の風上から作業し、風下の人を退避させる。

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。

#### 環境に対する注意事項:

環境への悪影響が懸念されるため、河川等へ排出されないよう注意する。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材:

粉塵の飛散に注意しながら掃き集め、密閉容器に回収する。

付着物、回収物などは、関係法規に基づき速やかに処分する。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策:

取扱いは換気の良い場所で行う。適切な保護具を着用する。粉塵が飛散しないように注意する。取扱い後は手や顔などをよく洗う。

#### 注意事項:

できれば、密閉系で取扱う。粉塵やエアゾールが発生する場合には、局所排気を用いる。

#### 安全取扱い注意事項:

皮膚、眼および衣類との接触を避ける。

### 保管

#### 適切な保管条件:

容器を密栓して冷蔵庫に保管する。不活性ガスを充填する。施錠して保管する。酸化剤などの混触危険物質から離して保管する。

#### 避けるべき保管条件:

熱, 光, 空気

#### 安全な容器包装材料:

法令の定めるところに従う。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

#### 設備対策:

密閉化した設備又は局所排気装置を設ける。取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄用の設備を設ける。

管理濃度:

設定されていない。

許容濃度:

**ACGIH TLV(TWA):**

0.5 mg/m<sup>3</sup> (skin)

**OSHA PEL(TWA):**

0.5 mg/m<sup>3</sup> (skin)

**日本産業衛生学会(TWA):**

0.5 mg/m<sup>3</sup> (skin)

保護具

呼吸用保護具:

防塵・防毒マスク、自給式呼吸器、送気マスク等。

手の保護具:

不浸透性の手袋。

眼、顔面の保護具:

保護眼鏡(ゴーグル型)。状況に応じ保護面。

皮膚及び身体の保護具:

不浸透性の保護衣。状況に応じ、保護長靴。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状	無色結晶 31)
色	情報なし
臭い	特徴的な臭気 14)
臭いのしきい(閾)値	データなし
pH	情報なし
57°C(融点) 14)	
243°C(沸点) 14)	
122°C 14)	
データなし	
データなし	
データなし	
0.8 Pa(25°C) 14)	
4.3 14)	
1.1 48)	
水: 21g/L (20°C) (実測値)(水) 5) エタノール、エーテルに易溶、ベンゼンに可溶 6)	
log Pow = 0.95 14)	
515°C 14)	

331°C 48)

データなし

#### 融点・凝固点

57°C(融点) 14)

#### 沸点、初留点及び沸騰範囲

243°C(沸点) 14)

#### 引火点

122°C 14)

#### 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

#### 燃焼性(固体、気体)

データなし

#### 燃焼又は爆発範囲

データなし

#### 蒸気圧

0.8 Pa(25°C) 14)

#### 蒸気密度

4.3 14)

#### 比重(相対密度)

1.1 48)

#### 溶解度

水: 21g/L (20°C) (実測値)(水) 5) エタノール、エーテルに易溶、ベンゼンに可溶 6)

#### n-オクタノール/水分配係数

log Pow = 0.95 14)

#### 自然発火温度

515°C 14)

#### 分解温度

331°C 48)

#### 粘度(粘性率)

データなし

---

## 10. 安定性及び反応性

**反応性:**

情報なし

**化学的安定性:**

適切な条件下においては安定。

**危険有害反応可能性:**

特別な反応性は報告されていない。

**避けるべき条件:**

情報なし

**混触危険物質:**

酸化剤, 酸, 酸塩化物, 酸無水物

**危険有害な分解生成物:**

二酸化炭素, 一酸化炭素, 窒素酸化物

---

## 11. 有害性情報

**急性毒性****経口**

ラットLD50値:1400mg/kg(ACGIH 7th, 2001、IARC 27, 1982、産衛学会勧告, 1996)に基づき、区分4とした。

**経皮**

ラットLD50値:3200mg/kg(産衛学会勧告, 1996)に基づき、区分5とした。

**吸入:ガス**

GHS定義による固体である。

**吸入:蒸気**

データなし。

**吸入:粉じん及びミスト**

データなし。

**皮膚腐食性及び皮膚刺激性**

【分類根拠】 データ不足のため分類できない。(1)の情報もあるが、試験の詳細が不明であり分類判断には用いなかった。

【参考データ等】 (1)ウサギを用いた皮膚刺激性試験(OECD TG404)で本物質を4時間適用したところ刺激性は見られなかったとの報告がある(DFGOT(2001)、REACH登録情報(Accessed Dec. 2018))。

**眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性**

データ不足のため分類できない。

**呼吸器感作性**

データなし。

## 皮膚感作性

【分類根拠】 データ不足のため分類できない。動物実験において感作性を示さなかったとの報告(3)もあるが、試験の詳細が不明であり、ヒトにおける知見も十分ではないため、分類判断には用いなかった。なお、*o*-アニシジンの皮膚感作性は区分1である(CAS:90-04-0を参照)。

【参考データ等】 (1)本物質は、平成8年労働省告示第33号(平成25年厚生労働省告示第316号により改正)において、労働基準法施行規則別表第一の二第四号1の厚生労働大臣が指定する単体たる化学物質及び化合物(合金を含む。)に「アニシジン」として指定されており、本物質にさらされる業務による、特定の症状又は障害を主たる症状又は障害とする疾病(頭痛、めまい、嘔吐等の自覚症状、皮膚障害、溶血性貧血又はメトヘモグロビン血)が、業務上の疾病として定められている。(2)本物質は、平成15年厚生労働省労働基準局長通知基発第0811001号において、労働安全衛生規則第594条に規定する皮膚障害防止用保護具の備付けが必要な皮膚に障害を与える物のうち「アニシジン」として指定されている。(3)モルモットを用いた皮膚感作性試験において、本物質は皮膚感作性を示さなかったとの報告がある(DFGOT(2001))。(4)動物実験及び症例報告では、本物質に感作性があるとの知見は確認されなかったとの報告がある(GESTIS(Accessed Dec. 2018))

## 生殖細胞変異原性

複数の指標の*in vitro*変異原性試験(細菌を用いる復帰突然変異試験およびほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験)で陽性の結果がある(ACGIH 7th, 2001、NTP DB, 2006)が、細菌を用いる復帰突然変異試験では陰性の結果(NTP DB, 2006、IARC 27, 1982、産衛学会勧告, 1996)もあり、強い陽性であるとはいえないことから、データ不足のため分類できないとした。

## 発がん性

ACGIHでA4(ACGIH 7th, 2001)、IARCでグループ3(IARC Suppl.7, 1987)に分類されていることから、区分外とした。

## 生殖毒性

データなし。

## 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

産衛学会勧告(1996)のヒト暴露例においてメトヘモグロビン血症によりチアノーゼが発生したとの記述から、区分1(血液)とした。

## 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

ACGIH(7th, 2001)のマウスを用いた吸入暴露試験において貧血および網赤血球増加が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述から、区分1(血液)とした。

## 吸引性呼吸器有害性

データなし。

---

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性:

#### 魚類:

96h LC50:>100 mg/L (*Oryzias latipes*)

#### 甲殻類:

48h EC50:4.1 mg/L (*Daphnia magna*)21d NOEC:0.13 mg/L (*Daphnia magna*)

#### 藻類:

72h EC50:4.6 mg/L (*Selenastrum capricornutum*)

### 残留性・分解性:

65 % (by BOD) , 88.0 % (by TOC) , 100 % (by GC)\* 既存化学物質安全性点検による判定結果: 良分解性

#### 生体蓄積性(BCF):

情報なし

#### 土壤中の移動性

##### オクタノール/水分配係数:

0.95

##### 土壌吸着係数(Koc):

78

##### ヘンリー定数(PaM 3/mol):

0.1

#### オゾン層への有害性:

情報なし

---

### 13. 廃棄上の注意

適切な保護具を着用する。

地方条例や国内規制に従う。

焼却処理する場合には、可燃性溶剤に溶解または混合した後、アフターバーナー及びスクラバーを備えた焼却炉で焼却する。

空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に行う。

処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

---

### 14. 輸送上の注意

#### 国連番号:

2811

#### 品名(国連輸送名):

Toxic solid, organic, n.o.s.

#### 国連分類:

クラス6.1(毒物)

#### 容器等級:

III

#### 海洋汚染物質:

Y

#### 輸送の特定の安全対策及び条件:

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にし、法令の定めるところに従う。

---

## 15. 適用法令

### 労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(法第57条、施行令第17条別表第3第1号並びに施行令第18条及び第18条の2別表第9)

### 労働基準法

疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)

### 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)

第二種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第2条別表第2)

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

### 参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>  
pageID=0&request\_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

**免責事項:**

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本MSDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。